



瀬戸内海クルーズ推進会議（第8回全体会議）

これまでの活動報告及び令和6年度の活動計画（案）

令和6年4月24日

瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局



- 1.瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取り組み
- 2.令和5年度の活動報告
- 3.令和6年度の活動計画（案）



1.瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取り組み

瀬戸内海クルーズ推進会議の目的と体制

設立の目的（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第2条）

○我が国におけるクルーズが進展しつつある中、瀬戸内海や瀬戸内海を囲む諸港、諸地域において、瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海^(※)となることを目指し、また、その取組みを通じて当該海域・地域の振興を図るとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目的に設立。

※「明日の日本を支える観光ビジョン—世界が訪ねたくなる日本へ（平成28年3月20日）」での施策集において“日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディスティネーションに～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～”との言及もあり。

推進会議の体制（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第11条、12条、13条）

○瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体、民間団体、国の機関から構成される『全体会議』及び近畿・中国・四国・九州の各エリアに關係する構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表: 芦谷中国経済連合会会長(中国電力会長)、副代表: 佐伯四国経済連合会会長(四国電力会長)

全体会議

総括事務局: 中国地方整備局(港湾空港部)

事務局: 近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局(各港湾空港部)

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

【開催日】

第1回(平成30年12月13日)

第2回(令和元年5月23日)

第3回(令和元年11月12日)

第4回(令和2年7月14日)書面

第5回(令和2年12月21日)Web

第6回(令和4年1月28日)Web

第7回(令和5年1月30日)Web



情報共有 提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

事務局: 近畿地方整備局
(港湾空港部)

中国エリア会議

事務局: 中国地方整備局
(港湾空港部)

四国エリア会議

事務局: 四国地方整備局
(港湾空港部)

九州エリア会議

事務局: 九州地方整備局
(港湾空港部)

瀬戸内海クルーズ推進会議の取り組み方針

●瀬戸内海クルーズ推進会議アクションプラン（行動計画）※第3回全体会議（令和元年11月12日）より

①広域連携による戦略的な誘致活動の実施

- クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。
※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社）を招聘。
※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施（併せて希望する社に対して現地視察を実施）。

②魅力的なクルーズプランの提案

- 瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。
※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。
※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレードなどで船社側に提案。

③戦略的な情報発信

- 船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。
※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編し、瀬戸内海クルーズ用に作成。
- 瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。
- 瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードクルーズグローバルへの参加。
※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。

【目指すべき将来像】

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上
(瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて)

クルーズ船社等によるセミナー ※取り組み方針①関係

クルーズ業界で最も急成長していると言われる探検クルーズをテーマとしたセミナーを開催。探検クルーズとは、小型ラグジュアリークルーズ船（乗客定員100-300名程度）と同船に搭載するゾディアックボートの機動力を活かし、小さな港町、秘境、大自然等を巡るもの。

2023年には瀬戸内海での探検クルーズが検討されていることから瀬戸内海クルーズ推進会議としても誘致に力を入れており、当日は同会議メンバー等、約70名が参加。

開催概要 【瀬戸内海クルーズ推進会議 瀬戸内探検クルーズセミナー】

●日時：令和3年12月9日(木) 15:00～16:45



●セミナー概要：

1. 世界に広がる探検クルーズ
2. ポナン探検クルーズの概要と検討中の2023年瀬戸内探検クルーズについて
3. パネルディスカッション：「探検船を受け入れる自治体の取り組みと2023年瀬戸内探検クルーズ寄港予定地の紹介」

(一般財団法人 みなと総合研究財団 権野氏)

(ポナン 日本・韓国支社長 伊知地氏)

(○沖縄県座間味村 宮里村長 ○福山市港湾河川課 中川氏 ○尾道市港湾振興課 西門氏 ○呉市港湾漁港課 檜垣氏)



図 2023年瀬戸内エクスペディション(予定)及び上陸イメージ(鞆の浦)

ポナン社が予定している瀬戸内探検クルーズ



※鞆の浦、尾道、御手洗、下蒲刈の写真はパネルディスカッション資料より引用

クルーズ船社等の誘致活動及びFAMツアー ※取り組み方針①②関係

令和元年9月に開催した第1弾を皮切りに、6度の瀬戸内海クルーズ推進会議 誘致活動を企画。

令和5年度は誘致活動 第7弾を開催（詳細後述）。※第3弾は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

開催概要（誘致活動第4弾の例）

【誘致活動】令和2年10月30日(金) 10:30～17:00 TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅前 会議室

①パネルディスカッション：「招聘3者のプレゼンテーション」、「現地視察の感想（体験乗船）」、「瀬戸内海エリアの寄港地観光に関する期待、要望」

②誘致活動（商談会）：「招聘3者へ各自治体（18自治体）からのプレゼンテーション」、「クルーズ誘致に向けた打ち合わせ」

【FAMツアー】令和2年10月29日(木) 08:30～17:50 広島港～呉港～下蒲刈島～大崎下島（御手洗港）～大久野島～生口島（瀬戸田港）～広島港

船社等からの主な意見

【クリスタルクルーズ 日本地区セールスマネージャー】

- 地域特有のストーリーを紹介できる観光要素を紹介してほしい。例えば日本には寺院等が多くあるが、何が違うかわからない。ストーリー自体が地域のアピールポイントとなる。
- 季節物の観光要素はタイミングがシビアであるため、通年で楽しめる観光要素をアピールしてほしい。



パネルディスカッション

【日本クルーズ客船 営業部企画課担当副長】

- 有名な観光要素であれば、乗船客もすでに知っていることが多いため、ツアーに組み込むことは少ない。地元でしか体験できない観光要素を求めている。
- 地元にとっては当たり前のものが、観光客にとっては珍しいものに映ることもある。客観視して、既存のものを見直すことが必要である。



誘致活動（商談会）

【クルーズバケーション 代表取締役社長】

- 乗船客へ観光地の印象を残すためには、地域住民と触れ合う機会が重要である。そのため、地域住民によるガイドの育成等も必要となると考える。
- 海外のクルーズ船が日本に来るタイミングは、季節の変わり目（春：3～5月、秋：9～11月）が多いため、このタイミングで楽しめる観光要素があることが重要である。

FAMツアーの概要



令和4年11月18日(金)、邦船社・外国船社・クルーズ船チャーターを行っている旅行会社・ランドオペレーターの4社を招聘し、瀬戸内海クルーズ推進会議メンバーによる誘致活動(商談会)を開催。今回は新たな取り組みとして、招聘社に瀬戸内海を周遊するクルーズをイメージしてもらうべく、瀬戸内エリアを4つのブロック分けにした上で、各ブロックより誘致活動を行った。

開催概要

誘致活動第6弾(商談会) 令和4年11月18日(金) 10:30~17:40

①招聘社によるプレゼンテーション(午前)

②招聘者及び推進会議メンバーによる商談会(午後)

招聘社: 商船三井客船、シルバーシークルーズ、阪急交通社、
東武トップツアーズ

推進会議メンバー: ブロック①〔和歌山県・徳島県・大阪府〕
ブロック②〔兵庫県・岡山県・香川県〕
ブロック③〔広島県・愛媛県〕
ブロック④〔山口県・福岡県・大分県〕



招聘社によるプレゼンテーション



各ブロックによる誘致商談会

招聘社の主な発言内容

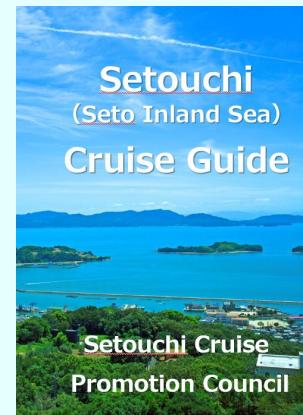
- ✓ コロナ前に比べて、船上から景色を楽しんでもらう機会が増えた今、寄港地のみでなく、夜間含め景色が楽しめる瀬戸内海は魅力的。寄港地においては出発前にお土産が買われることが多く、岸壁での物産展は有効。(商船三井客船)
- ✓ 11月15日に国際クルーズ再開に関するガイドラインが発出されたが、今後、船社はこれに基づくプロトコルを作成し、認証を受ける。その後、寄港地との合意形成を図って、再開という流れ。(シルバーシークルーズ)
- ✓ 最近、韓国もクルーズ船誘致に注力しており、今後は日韓の誘致競争になるかもしれない。瀬戸内海は、通常のクルーズだけでなく、エクスペディションクルーズにも絶好のロケーション。(同)
- ✓ 日本発着の大型船チャーター便は割安であり、予約状況も好調である。チャータークルーズは、経費等と条件が合えば、多様な地域に寄港できるチャンスがある。(阪急交通社)
- ✓ 地域それぞれの実状を認識して商品設計する必要があり、東京からオペレーションだけでは限界がある。地元のパートナーシップが非常に大切であり、皆さんと新しい商品の立案・実施することで、地域の観光魅力度も高めたい。(東武トップツアーズ)

魅力的なクルーズプランの提案と戦略的な情報発信のため、「各港ガイド（岸壁諸元・観光コンテンツ・四季の見どころ・イベント一覧等）」や「瀬戸内海の“おすすめクルーズプラン”の提案」を掲載した 瀬戸内海クルーズガイド を作成。
また、クルーズ寄港予定地を春夏秋冬別で魅力発信する PR動画 を作成。

瀬戸内海クルーズガイド (2020年初版)

◆概要

A5版 全143ページ (英語版、日本語版2パターン)
<https://www.uminet.jp/cruise-ships/>



◆構成

1. 瀬戸内海クルーズプラン ①春の旅 ②夏の旅 ③秋の旅 ④冬の旅
2. 瀬戸内海沿岸の観光コンテンツ
①世界遺産 ②国宝建造物 ③国宝美術品 ④観光名所、
⑤ローカルグルメ ⑥観光体験 ⑦問い合わせ先
3. 瀬戸内海に関する情報
①瀬戸内海の航行規制 ②瀬戸内海のクルーズ船受入岸壁 ③瀬戸内海の主な港湾

瀬戸内海PR動画

◆概要

フル動画 8分44秒 (英語版、日本語版2パターン)
<https://youtu.be/iWOS8tUzjvU>



◆構成

瀬戸内海の紹介、季節毎のおすすめ観光地 等

活用方法

◆主な活用事例

- ・クルーズ船社等誘致活動、クルーズセミナー等に、クルーズ船社（邦船及び外国船）や旅行会社、ランドオペレーターを招聘した際、クルーズガイドブックや動画を活用し瀬戸内海をPR

Seatrade Cruise Global におけるプロモーション ※取り組み方針③関係

- 米国フロリダ州マイアミにおいて開催された「Seatrade Cruise Global 2019」に瀬戸内海クルーズ推進会議（総括事務局：中国地方整備局）が参加。
 - 日本政府観光局が設置するJAPANブースにおいて瀬戸内海クルーズの魅力を発信するとともに、同推進会議の関連港や本省港湾局産業港湾課クルーズ振興室と連携し、瀬戸内海への寄港の少ない船社を中心に、複数船社と面談を実施。
- ※ Seatrade Cruise Global：毎年春に米国フロリダ州で開催される世界最大のクルーズ見本市。各国クルーズ船社のキーパーソンや各国関係者（政府観光局、港湾管理者、船社等）が集結し、各参加者によるPR、商談会などのセールスが展開される。

Seatrade Cruise Global 2019において、各港と連携し、瀬戸内海クルーズを発信

【開催日程】 平成31年4月8日（月）～4月11日（木）

【開催場所】 米国フロリダ州フォートローダーデール Miami Convention Center

【主な参加者】 各国政府観光局・港湾局、造船・舶用メーカー、クルーズ・オペレーター、ツアーオペレーター 等

我が国からの参加団体（★：瀬戸内海クルーズ推進会議構成員）

青森県、秋田県、石川県・金沢市・（一社）金沢港振興協会、岩手県、[大阪市](#)、鹿児島県、京都舞鶴港、熊本県、高知県、[瀬戸内海クルーズ推進会議](#)、東京港、新潟県、[広島県](#)、福井県、伏木富山港、[山口県](#)、この他、国土交通本省港湾局、旅行会社等が参加

面談を実施した船社（6社）

- The Ritz Carlton Yacht Collection社
- Norwegian Cruise Line Holdings社
- ResidenSea Cruise社
- Holland America Line社
- TUI Cruises社
- MSC Cruises社

【面談した船社から得られた瀬戸内海クルーズの期待】

- 瀬戸内海への寄港実績が少ない船社もしくは寄港実績の無い船社であっても、瀬戸内海のポテンシャル・魅力は伝わっている。
- 個別の港への誘致も重要であるが、瀬戸内海クルーズのようにエリア単位として売り込むことも重要ではないか。
- 瀬戸内海クルーズとして各港が連携して誘致に取り組むことで瀬戸内海としてのブランド力も向上する。



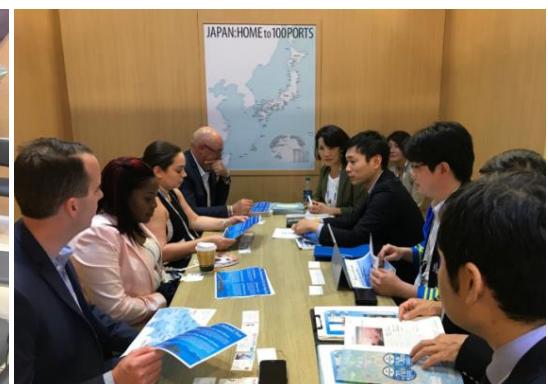
JAPANブースの様子



鏡割の様子



船社と瀬戸内海クルーズ推進会議事務局の面談の様子



瀬戸内海クルーズ推進会議の取り組み(第6回)

令和4年1月28日、アフターコロナにおける瀬戸内海クルーズの再興及び更なる振興を目指し、「瀬戸内海クルーズ推進会議」の第6回全体会議をオンライン開催。※会議には、近畿、四国、中国、九州地区より、瀬戸内海沿岸の自治体、国の機関、民間団体等の約100名が参加。

開催概要

【開催日】令和4年1月28日15:00～16:45

【場所】港湾空港部会議室 オンライン会議
(Microsoft Teams)

【次 第】

開会挨拶

(1) 今年度の活動報告及び今後の予定 (推進会議事務局)

(2) 最近のクルーズの動向について (国交省港湾局)

(3) 海外の旅客ターミナル等における
新型コロナウイルス感染症対策
((一財) みなと総合研究財団)

(4) **観光型MaaS「setowa」取組み紹介**
(JR西日本デジタルソリューション本部)

(5) 瀬戸内クルーズネットワーク構想
((一社)日本プロジェクト産業協議会)

(6) **本四高速の地域連携への取組**
(本州四国連絡高速道路(株))

(7) 意見交換

＜全体会議の主な内容＞

【海外のターミナル等における感染対策 (みなと総合研究財団)】

✓ 各国ターミナルの感染対策、各国及び国際機関発出のガイドライン、オミクロン株の影響によるクルーズ動向及び市場の見通しについて紹介。

【観光型MaaS「setowa」 (JR西日本デジタルソリューション本部)】

✓ setowaのMaaSアプリにより、利用者は人気スポットや観光モデルコース等の情報が得られるとともに、経路検索結果からの各種予約、周遊バス等の購入が可能。エリア拡大、商品拡充も進み、利用者が大幅に上昇している。

✓ setowaに参画する事業者は、チケットの電子化(キャッシュレス化)、利用者の各種データ(移動データ等)の入手等のメリットがある。

【本四高速の地域連携の取組】 (本州四国連絡高速道路(株))

✓ インフラツアーやSA/PAを拠点とした地域連携のみならず、塩飽(しわく)諸島をはじめとする島旅の活性化、サイクリングルートのネットワーク化等、様々な取り組みを実施中。



瀬戸内海クルーズ推進会議 第7回全体会議

令和5年1月30日、アフターコロナにおける瀬戸内海クルーズの再興及び更なる振興を目指し、「瀬戸内海クルーズ推進会議」の第7回全体会議をオンライン開催しました。※会議には、近畿、四国、中国、九州地区より、瀬戸内海沿岸の自治体、国の機関、民間団体等の約120名が参加。

開催概要

【開催日】令和5年1月30日(月) 13:30~14:50

【場 所】合庁副局長室 オンライン会議(Microsoft Teams)

【次 第】

開会挨拶 (中崎副局長)

(1) 今年度の活動報告及び今後の予定 (推進会議事務局)

(2) 最近のクルーズの動向について (国交省港湾局)

(3) せとうちDMOの取り組み ((一社)せとうち観光推進機構)

(4) 意見交換

・瀬戸内海島しょ部における快適な観光実現 (広島県)

・瀬戸内クルーズネットワーク構想

((一社)日本プロジェクト産業協議会)

<全体会議の主な内容>

【最近のクルーズの動向 (国交省港湾局)】

- ✓ 2022年のクルーズ訪日客はゼロだが、我が国港湾への寄港回数は対前年比71.4%増となった。
- ✓ 国際クルーズ運航ガイドライン策定・公表により、寄港予定港湾の関係者と協議を行い、合意を得た上で、順次運航再開となる予定。

【瀬戸内DMOの取り組み (瀬戸内観光推進機構)】

- ✓ 瀬戸内の魅力を再発見し、エリア化からルート化への取り組みを紹介。
- ✓ せとうちを4つのゾーンに分け、地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けた周遊ルートの紹介。

【瀬戸内海島しょ部における快適な観光実現 (広島県)】

- ✓ MaaSアプリを活用した島巡りプランの選択肢を拡大する等の実証実験の実施について紹介。

【瀬戸内クルーズネットワーク構想 (日本プロジェクト産業協議会)】

- ✓ 多島クルーズ事業のマッチング・事業化推進の機能を持つ、「島たびプラットフォーム」構築に向けた支援の要請。

<オンライン会議の開催状況>



○瀬戸内海クルーズ推進会議の中央要望

瀬戸内海クルーズに関する緊急要望

令和4年6月2日
瀬戸内海クルーズ推進会議有志一同

<要望概要>

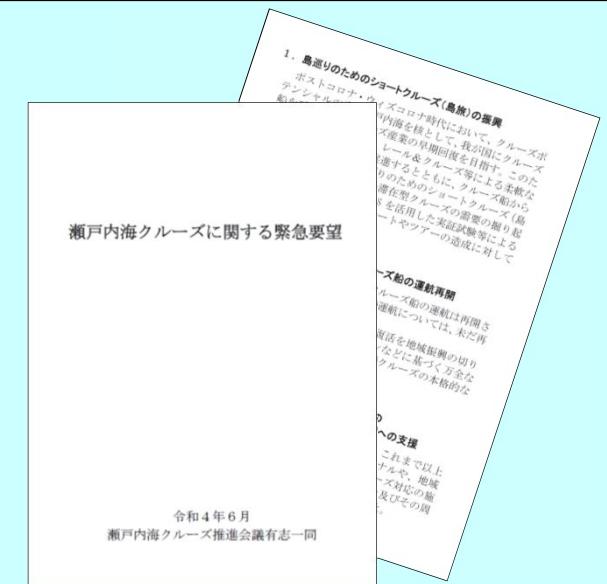
- 島巡りのためのショートクルーズ(島旅)の振興
- 瀬戸内海における外国籍クルーズ船の運航再開
- 大型クルーズ船やショートクルーズ対応の施設整備への支援
- クルーズや寄港地の安全性の積極的なPR



右から田邊 広島県副知事、浅輪 前国交省港湾局長、
苅田 瀬戸内海クルーズ推進会議 前代表



右から田邊 広島県副知事、金子 前観光庁国際観光部長、
苅田 瀬戸内海クルーズ推進会議 前代表



瀬戸内海クルーズに関する緊急要望(令和4年6月)



クルーズ船の誘致

- 整備局、港湾管理者、港湾所在市等が協力して誘致活動を行ってきたボナン社(仏)のエクスペディションクルーズについて、2022年2月、同社が2023年の商品として以下2件を販売開始した。
- 同社は2024年のエクスペディションクルーズ商品も3件を販売開始。

「北前航路をたどる旅」



■スケジュール

日次	日程	寄港地	入港	出港
1	4月11日(火)	小樽		17:00
2	4月12日(水)	終日航海	—	—
3	4月13日(木)	酒田	7:00	18:00
4	4月14日(金)	佐渡	7:00	18:00
5	4月15日(土)	富山	6:00	18:00
6	4月16日(日)	伊根	13:30	18:00
7	4月17日(月)	鳥取	13:00	17:00
8	4月18日(火)	萩	9:00	18:00
9	4月19日(水)	釜山(韓国)	7:00	12:00
10	4月20日(木)	門司	7:00	18:00
		御手洗	7:00	11:30
11	4月21日(金)	鞆の浦	15:15	20:00
12	4月22日(土)	大阪	7:00	

「穏やかなる瀬戸内海」



■スケジュール

日次	日程	寄港地	入港	出港
1	5月15日(月)	大阪		18:00
2	5月16日(火)	犬島	7:00	18:00
3	5月17日(水)	鞆の浦	7:00	11:30
		尾道	14:00	20:00
4	5月18日(木)	御手洗	7:00	12:00
		下蒲刈	14:00	18:00
5	5月19日(金)	萩	12:30	18:00
6	5月20日(土)	対馬	7:00	18:00
7	5月21日(日)	麗水(韓国)	7:00	14:00
8	5月22日(月)	博多	7:00	

鳥取

海の幸・山の幸が豊富

日本最大の砂丘・鳥取砂丘があり、市の中心部に温泉が湧くなど豊かな観光資源に恵まれています。日本海と中国山地に挟まれ、松葉ガニ、梨、鳥取和牛など、山海のおいしいものも盛り沢山。滞在中ぜひご賞味を。





2. 令和5年度の活動報告

令和6年2月6日、アフターコロナにおける瀬戸内海クルーズの再興及び更なる振興を目指し、「瀬戸内海クルーズセミナー ~瀬戸内におけるクルーズ再興に向けた取り組み~」をオンライン開催しました。※セミナーには、近畿、四国、中国、九州地区より、瀬戸内海沿岸の自治体、国の機関、民間団体等の約80名が参加。

開催概要

【開催日】令和6年2月6日(火) 14:00~16:00

【場 所】オンライン会議(Microsoft Teams)

【次 第】

1. 開会

2. 議事

- 1)コロナ後のクルーズのトレンドとニーズについて(みなと総合研究財団)
- 2)ヨット型客船のコンセプトと寄港地(瀬戸内海エリア)での運営アイデアについて

(両備ホールディングス)

- 3)「せとうちエリア」における高付加価値なインバウンド観光地づくり
(せとうち観光推進機構)
- 4)大阪・関西万博の最新動向と万博を契機とした観光推進について
(2025年日本国際博覧会協会)

5)質疑応答

3. 閉会

＜セミナーの主な内容＞

【コロナ後のクルーズのトレンドとニーズについて(みなと総合研究財団)】

- ✓ 観光資源の磨き上げ、二次交通の確保、関係者間の連携が課題。
- ✓ 二次交通の海上輸送について現地検証を実施。
- ✓ 大規模イベントと連携したクルーズ船誘致について検討。

【ヨット型客船のコンセプトと寄港地での運営アイデアについて(両備HD)】

- ✓ ヨットスタイル客船によるコンセプトやターゲット、運行事業の概要を紹介。

【「せとうちエリア」における高付加価値なインバウンド観光地づくり (せとうち観光推進機構)】

- ✓ せとうちDMOによる瀬戸内における高付加価値観光地の整備のための課題や具体的な取り組みについて紹介。

【大阪・関西万博の最新動向と万博を契機とした観光推進について (2025年日本国際博覧会協会)】

- ✓ 万博の開催に向けた最新動向やポータルサイトの取組クルーズとの連携や誘致活動について紹介。

＜オンライン会議の開催状況＞



事務局



登壇者の発表状況

- 令和5年12月6日～7日、東京（TKP田町）にてアフターコロナにおける新たなクルーズ誘致活動として、セミナー及び商談会を開催。本誘致活動には、邦船社・外国船社・旅行会社・ランドオペレーターから8社を招聘、国・自治体・観光協会等の総勢約60名が参加。
- 初日は、招聘者によるセミナーを開催し、令和5年のクルーズ寄港を振り返り、乗客のニーズ、寄港地へのアドバイス及び令和6年以降の展望等が説明された。2日目は、セミナーを踏まえ、自治体・観光協会等から、各地域の観光コンテンツ等のPRによる商談会が行われた。

①開催概要

- 開催日時：令和5年12月6日（水）【招聘社によるセミナー】
令和5年12月7日（木）【招聘者と自治体等の商談会】

- 開催場所：東京（TKP田町カンファレンスセンター2階）

■参加者

- 招聘社：郵船クルーズ（株）、（株）MSCクルーズジャパン、
（株）カーニバル・ジャパン、シルバーシー・クルーズ、
（株）JTB、（株）読売旅行、東武トップツアーズ（株）、
（株）デスティネーションアジア・ジャパン

○参加自治体・観光協会等

広島県、呉市、尾道市、岡山県、山口県、柳井市、防府市、鳥取港振興会
島根県、浜田市、浜田港振興会、大阪港湾局、兵庫県、神戸市、和歌山県
和歌山市、香川県、徳島県、イーストとくしま観光推進機構、愛媛県、
松山市、宇和島市観光物産協会、北九州市、大分県、別府市、佐伯市、
佐伯市観光協会、中国経済連合会、各地方整備局

③商談会



- ・各自治体等からパンフレットや動画等を使ったプレゼンが行われ、各地域の観光、体験イベント、グルメ等を紹介、活発な意見交換が行われた。
- ・招聘者からは、「日本が世界に誇れる文化、自然、産業等がある瀬戸内海の魅力を伝えたい。」、「最新の観光・港湾事情に関する情報等を提供頂き、今後のクルーズスケジュールの造成等に参考になる。」等、感想を頂いた。

②セミナー（その1）



MSCクルーズ

- ・関係者の皆様のご協力により、日本国内に向けたオリジナル商品を開発した。新しい試みとして、レゲエクルーズ等やNetflix等のメディアを使った情報発信も行っている。
- ・寄港地はリスト化して評価を行っている。サポートして頂いた港への恩は忘れない。
- ・新しい港への寄港にチャレンジしていきたい（沖縄那覇発着、石垣島、宮古島等）。



カーニバルジャパン

- ・ダイヤモンド・プリンセスの客層は、外国人約45%、日本人約55%で、日本人の約65%はパッケージツアー（Wi-Fi付・ドリンク付き等）を好む。
- ・今後は、停泊して寄港地をゆっくり楽しめる停泊ツアーも検討すると良い。
- ・港は電気供給等、未来に求められるインフラ整備が必要。
- ・町を挙げての歓迎はありがたいが、一過性ではなく継続的なサービスが重要。

②セミナー（その2）



シルバーシークルーズ

- ・探検クルーズ船（自然体験・学びのツアー）の人気が高い。
- ・現状、外国人には都市型（キラーコンテンツ）が人気が高く、地方は同じ内容に見えて、印象に残っていない。
- ・通訳ガイドの英語力が韓国と比較すると低い。
- ・万博との連携が無い。当社は、モナコのF1やリオのカーニバル等の連携を行っており、祭りとの連携は重要である。



郵船クルーズ
(代理: WAVE)

- ・クルーズ再開にあたり、バスや観光ガイドの手配が困難で、入港出来ない場合もあったため、スケジュールを組むのに苦労した。
- ・寄港地と連携し、地元の食材（果物・海産物等）をPRしたい。
- ・飛鳥Ⅲが2025年夏に就航予定なので、各港と連携したい。



JTB

- ・チャータークルーズは、船社と連携して継続したい。
- ・クルーズ事業を単純な発旅行商品としてだけでなく、着地コンテンツ、インバウンド、地域活性事業等、横断的な取り組みを行っていきたい。
- ・JTBが保有する各機能（店舗・コールセンター・WEBなど）を有機的に活用し、船社特性とお客様ニーズをマッチさせる商品造成及び売り方を構築していきたい。
- ・船社との戦略的業務提携を軸に、新たな航路、寄港地開発、着地コンテンツの開発を行っていきたい。



読売旅行

- ・日本人には、料金が分かりやすい（追加料金の無い）パッケージツアーの人気が高かった。
- ・アプリ（バス停や観光地への距離の検索）、Wi-Fi環境の整備が必要。
- ・高齢者のお客様も多いため、デジタルだけでなく、紙媒体の対応も行いたい。
- ・御朱印帳ならぬ、クルーズ・寄港地印帳（案）などを展開したら面白い。



東武トップツアーズ

- ・クルーズ船社と旅客のニーズは把握していたが、地元のシーズ（観光素材）を分かっていなかった。
- ・寄港地の団体観光ツアーが3割程度であり、残り7割は個人旅行の少人数行動型に変化している。（個人向けの新商品開発が必要）
- ・高価な商品ほど、地元のことを良く知っている良質な観光ガイドの確保が必要。



ディスティネーションアジア

- ・コロナ禍後は、探検ツアー等、人との交流や自然体験が出来るものを好まれる傾向がある。
- ・リピーターのクライアントは、新たなキラーコンテンツを望まれている。（地域の独自性・ストーリー性のあるもの）
- ・観光コンテンツに加えて、お客様の経験を深めてくれる優秀な観光ガイドの手配が重要である。

瀬戸内海クルーズガイド を更新し、近年の新しいニーズや最新の情報を追加掲載。また、各種クルーズ寄港予定地等の情報を発信するため、瀬戸内クルーズホームページ も更新。

瀬戸内海クルーズガイド (2023年更新)

◆更新内容

1. 瀬戸内海クルーズプラン
→春・夏・秋・冬のクルーズプラン、探検クルーズプランの最新情報を掲載
2. 瀬戸内海沿岸の観光コンテンツ
→コンテンツのアップデート
3. 瀬戸内海に関する情報
→瀬戸内海の航行規制、主な港湾、クルーズ船受入岸壁、主な沖泊地、船内廃棄物受入情報を更新



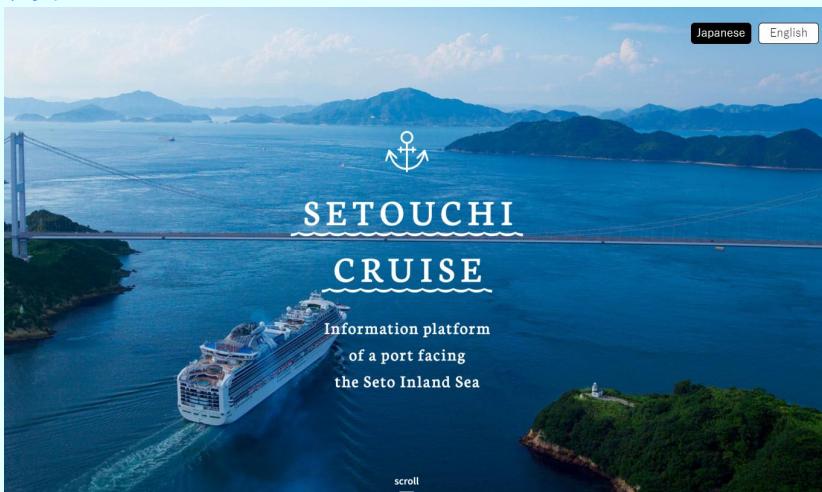
瀬戸内クルーズプラットフォーム更新

◆HP仕様

英語版、日本語版の2パターン

PR動画視聴・各港の地図上検索・都道府県別検索が可能

トップ



PR動画



各港地図上検索



港の概要



2次交通船を利用した島たびクルーズの現地検証①

クルーズ船寄港時においても今後懸念されるオーバーツーリズム対策の一環として、不足する陸上交通（大型バス等）を小型船利用による海上交通で補填するとともに、瀬戸内の島々の新たな観光コンテンツを掘り起こすことで、観光地の分散化、地域振興等につなげるため、2次交通船を利用した島たびクルーズの現地検証を行った。

現地検証には、外国クルーズ船社から寄港地のプランニングを任せているランドオペレーター（東武トップツアーズ、ディスティネーション アジア ジャパン）をお招きし、寄港地の受入自治体等を含む延べ約40名が参加した。

■実施日：令和5年11月8日（水）9:00～17:00

■実施場所

・三原発着コース【1日目】

三原港→①小佐木島→②佐木島→③生口島→④大久野島→⑤大崎下島→⑥大崎上島→三原港



⑥大崎上島（大望月亭）



①小佐木島（サウナ）



サイクリングシップラズリ（旅客定員130名）



②佐木島（磨崖と靈石地蔵）



③生口島（耕三寺）



③生口島（平山郁夫美術館）

2次交通船を利用した島たびクルーズの現地検証②

■実施日：令和5年11月9日（木）9:30～18:00

■実施場所

・宇品発着コース【2日目】

宇品→江田島（①第1術科学校・②オイスターファクトリー・③江田島荘）→④倉橋島（桂浜）→⑤倉橋島（亀ヶ首）→⑥呉港→宇品



くれない2（旅客定員80名）



⑤呉港（艦船クルーズ）



①江田島（第1術科学校）



②江田島（オイスターファクトリー）



③江田島荘



江田島

（バス車内の説明は宇田島市担当者）

- ①宇品港発
↓チャーター船で移動（25分）
- ②小用港
↓バス移動（10分）江田島バス（株）
- ③第1術科学校（40分）
説明は海上自衛隊職員
↓バス移動（10分）江田島バス（株）
- ④江田島オイスターファクトリー（20分）
説明は訪問先のご担当
↓バス移動（10分）江田島バス（株）
- ⑤江田島荘（20分）
説明は訪問先のご担当
↓バス移動（20分）江田島バス（株）
- ⑥小用港



倉橋島

（バス車内の説明は宇田島市担当者）

- ⑥小用港
↓チャーター船で移動（約60分）
※船上で昼食
- ⑦倉橋島（桂浜、長門造船記念館等）
(周遊コース90分)
説明は倉橋ボランティアの会
↓チャーター船で移動（30分）
- ⑧亀が首発射場跡（40分）
説明は倉橋ボランティアの会
↓チャーター船で移動（約70分）
↓呉港の停泊艦船を通して見
説明はチャーター船社
- ⑩宇品着



⑤倉橋島（亀ヶ首発射場跡地）



④倉橋島（桂浜）

【ランドオペレーターコメント】

- ・瀬戸内の島々の魅力を体験でき、広島県の観光地は平和公園や宮島だけでは無いことを再認識した。
- ・観光コンテンツとして素材の良いものを多く見せて頂き、瀬戸内のポテンシャルの高さを感じた。他方、戦争遺構は簡単ではないが、大変興味深く、価値ある観光コンテンツもあるため、どのように売り出していくか日々に考えさせられた。
- 等のコメントを頂き、今後の新たな観光コンテンツの掘り起こし（ツアー造成）に繋がる現地検証を行うことが出来た。



3. 令和6年度の活動計画（案）



令和6年度の活動計画(案)



広域連携による戦略的な誘致活動の実施【継続・一部提案】

○クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動（現地視察）の実施。

- ・瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社を招聘。
- ・瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施（併せて希望する社に対して現地視察を実施）。

◆クルーズ船社のニーズにマッチし、広域連携を深化させた誘致活動の実施。

※船社より「寄港地を個別にではなく、複数の寄港地及び周辺エリアを包括的に提案してほしい」との意見があったことを踏まえ、例えば
“おすすめクルーズプラン”に沿った寄港地連携による誘致活動など、より効果的な手法を検討し、今後の誘致活動で実行する。

魅力的なクルーズプランの提案【継続】

○瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

- ・誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、複数の瀬戸内海クルーズプランを作成・更新。今後の誘致活動、シートレードクルーズなどで船社側に提案。

◆瀬戸内海における大規模交流イベント開催に向けたクルーズ企画の検討と検証。

※クルーズ船社などの意向を踏まえ、大阪万博、瀬戸内国際芸術祭の開催に関連したクルーズ企画についての検討・検証。

◆寄港地からの周遊エリア拡大方策の検討とクルーズプランの拡充。

※寄港地周辺や特定の観光地に集中しがちなクルーズ客を、MaaSの活用等により広範囲に誘客する方策を検討し、クルーズプランを拡充。

戦略的な情報発信【継続・一部提案】

○船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画、瀬戸内海クルーズガイド、瀬戸内クルーズHPの有効活用。

○瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードクルーズグローバル（米マイアミ）への参加。

- ・JNTOのクルーズ誘致プロモーション事業と連携、瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用しクルーズ船社に対するプロモーション。

◆「瀬戸内海クルーズガイド」及び「瀬戸内クルーズHP」アップデート。

※アップデート（各港施設・観光情報等）に向けて、会員自治体からの最新情報、意見等を集約中。

※クルーズガイドブックに探検クルーズプラン等に関する情報の追加掲載。